

新宿区 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

新宿区立 大木戸子ども園
新宿区四谷4-17

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『造形や科学の不思議を知ろう』

<テーマの設定理由>

造形や科学などの楽しい体験や活動を通して、子どもたちの興味、関心、発想を引き出していく。また、様々な実験などを通して、日ごろの園活動では経験できない好奇心や探求心を深め、「考える力」「解決していく力」を育てていきたいと考えている。

2. 活動スケジュール

第1回	4月10日(木)	『不思議ワールドへようこそ』	鏡
第2回	5月 8日(木)	『空気のかたまりを発射!!』	空気砲
第3回	6月 3日(火)	『引き合う、離れる!磁石パワー』	磁石
第4回	7月 2日(水)	『ふえる力で動かそう』	振動
第5回	9月 2日(火)	『いろいろな音を出してあそぼう』	音
第6回	10月 1日(水)	『回転ロケットを飛ばそう』	ロケット
第7回	11月13日(木)	『みんなの目はふしぎ』	錯視
第8回	12月 2日(火)	『ジャンボバルーン・スライダー』	空気・摩擦
第9回	1月15日(木)	『紙だけで作った凧を飛ばそう』	凧
第10回	2月 5日(木)	『くつつくもの くつつかないもの』	磁石・大気圧
第11回	3月 2日(月)	『色のふしぎをたのしもう』	立体視・補色



3. 探究活動の実践

<活動の内容>

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

大きな鏡、手鏡、丸い穴が開いた段ボール、黒のビニール袋、紙コップ、磁石、風船、クリップ、ビー玉、糸、ピンポン玉、モール、たわし、スポンジ、貝殻、ウェットティッシュ、ホース、ストロー、発砲スチロールの板、綿ファスナー、吸盤、ラバーカップ、セロファン、虫眼鏡、水性ペン、座席用子どもテーブル、子ども椅子

・活動の内容、活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

『くっつくもの くっつかないもの』 【磁石・大気圧】

3種類の(マジックテープ、磁石、吸盤)素材を使い、室内でくっつく場所を探す。H が「ここはくっつくかな?」とティッシュケースの紐にくっつける。それを見ていた S が「ここもくっつきそう」と保育者の持っていたカメラに近付きくっつける。「見て見てくっついたよ!」と保育者に言う。「本当だ、そこもくっつくんだね」と伝え、「すごいでしょ」と笑っていた。「他にもくっつく所あるかな?」と保育者が聞くと部屋の隅々まで探していた。「ここは?」「あっだめだ」「お、くっついた」と、HとSさらにAも加わり、それぞれで共感し「あそこ、くっついたよ」と教え合っていた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ア マジックテープ、磁石、吸盤とそれぞれ1つずつくっつく場所を探す中で、大人では想像のつかない場所を見つける子どもたちの発想(イメージ)は、面白く豊かであると感じた。
- イ 保育者も子どもたちの気づきに共感することで、「やってみたい」や「楽しい」「面白い」というさらなる意欲にもつながることがわかった。子どもたちの興味や気づきを大切にしながら、環境を設定したり構成したりすることの必要性も、改めて感じることもできた。

